

漆芸美術館だより



大角裕二《蒔絵六角箱「陽春」》【奨励賞 石川県輪島漆芸美術館賞】

88

展覧会紹介：「第37回日本伝統漆芸展」

展覧会紹介：「うるしのあ・い・うー漆芸技法の百科事典ー」

漆の小箱28：漆絵が宿すものづくりの営みー漆絵菓子盆をたずねてー

令和元年度 石川県輪島漆芸美術館友の会秋季研修旅行報告

ミュージアムショップからのおしらせ 他

2019年12月28日発行

「第37回 日本伝統漆芸展」

会期 2020年2月1日(土)～2月24日(月・振休)まで *会期中無休

日本を代表する工芸として、永い歴史を持つ漆芸。日本伝統漆芸展は、伝統の継承とその練磨、現代への応用を目的として毎年開催されています。第37回を迎える今年度は、受賞作7点を含めた全89点を展示いたします。

表紙の作品は、奨励賞 石川県輪島漆芸美術館賞を受賞した大角裕二氏の《蒔絵六角箱「陽春」》です。厳しい冬が終わり、雪が溶け、草木が芽を出し、山桜の花が咲く春の里山の歓喜の情景を表現した作品です。風で揺らぐ様を彷彿とさせる変形六角形の箱の蓋上に、太陽によって暖められた大気の流れを朱の乾漆粉を蒔いて溜塗の研ぎ出しで表しています。山桜は白蝶貝と金粉に白漆とピンクの彩漆を塗りばかしたもので、春の陽光を受けて輝いています。身の立ち上がりの前後には桜の花を ついばみに来るメジロを配し、雪解け頃の、太陽の恵みを深く感じられます。自然の風物をモチーフに高度な技術による独自の表現を追求する作者の秀作です。

朝日新聞社賞を受賞した寺西松太氏の《蒔絵名刺箱「魚影」》(図1)は、蓋上に水面の間隙からのごくドジョウの様子を、側面には、あたたかみのある白漆に苔むした石を描いています。作者は近年、海や川に住む生き物を題材に、変塗の一種である

蜻蛉塗せいらいぬりを用いて制作をしており、本作では、銀地に描かれたドジョウの上から、蜻蛉塗による水面を表すことで、画面に動きを与え、さらには水深をも感じさせます。蓋を開けると青貝や乾漆粉を用いて仕上げられた水中の世界が広がり、機能的な箱の造りも見ることが出来ます。



(図1) 寺西松太《蒔絵名刺箱「魚影」》【朝日新聞社賞】

重鎮から新進気鋭までがしのぎを削り、漆工芸の多様な挑戦と、各産地の伝統が育んだ地域性を見ることが出来る展覧会となっております。日本の漆芸界を牽引する輪島での開催を通して、多くの方にご覧いただければ幸いです。(高津綾乃)

列品解説のご案内

会期中毎日曜日、左記出品者による展示作品の解説を行います。

2月2日 大角裕二氏(日本工芸会正会員)

2月9日 林曉氏(審査・鑑査委員)

2月16日 西勝廣氏(鑑査委員)

2月23日 内島一郎氏(日本工芸会正会員)

輪島あえの風冬まつり協賛 入館料特別割引

期間 2月8日(土)～16日(日)

期間中は割引料金でご鑑賞いただけます。

一般 420円 / 高大学生 210円

小中学生 100円

「うるしのあ・い・うー漆芸技法の百科事典」

会期 2020年2月29日(土)～5月11日(月) *会期中無休

漆芸技法は、数えきれないほどの道具や材料、専門技術など、多種多様の要素によって支えられています。本展覧会ではその中でも加飾技法を中心に、道具や材料も併せてご紹介します。

作品など器物の表面に模様を付ける加飾には、沈金、蒔絵、堆錦、彫漆など様々な技法があり、それぞれに用いられる素材や道具、技術が異なります。加飾の代表的な技法である蒔絵を例にとると、平蒔絵や研出蒔絵、高蒔絵等など、様々な蒔絵技法があるだけではなく、材料の一つである金粉を例にとっても、丸粉、平目粉、梨地粉、消粉など多様な形状の粉が使い分けられています。さらには、その大きさや素材(銀粉やプラチナ粉など)によっても、蒔絵の表現は幅広く変化します。

このように多岐にわたると同時に細分化される漆芸技法をできるだけ分かりやすくご紹介するために、螺鈿の作品は材料となる夜光貝や白蝶貝の原貝、その厚貝や薄貝も展示するなど、作品だけではなく材料や道具等々の、加飾のために必要となる様々な資料を併せて展示いたします。

また、加飾技法の地域による違いもご覧いただけます。出品作品の一つ、音丸耕堂「彫漆カトレヤ菓子器」には、彩漆を塗り重ねた後に文様を彫る「彫漆」という技法が用いられています。香川漆器の彫漆の特徴として、様々な色の彩漆を塗り重ねた後に文様を彫り表す技法があり、本作(図1)にも彩



(写真上: 図1) 音丸耕堂《彫漆カトレヤ菓子器》1990年
(写真下: 図2) 藤井観文資料一式 20世紀前半
いずれも石川県輪島漆芸美術館所蔵

漆の美しい色の変化が見られます。彫られた断面の色がどのように塗り重ねられているのか、言葉による説明だけでは想像しにくい部分は、パネルで図解しながらご紹介いたしますので、ぜひ展示室でご覧ください。

加飾に必要な工程の資料として、藤井観文、竹園自耕の作品の下図も展示いたします。展開図の形で描かれている箱の下図などから(図2)、作品がどのような過程を経てデザインされているか、作者のイメージがどのように具体化されたのかを知るこ

とができるでしょう。このほかにも漆刷毛やその製作資料など、通常の展示では見る機会の少ない道具も展示するなど、漆芸技法を多角的な視点から解説し、漆芸の奥深い世界をご紹介します。

漆芸作品は、予備知識がなくてもその美しさを鑑賞することはできますが、技法や材料の違いを知ることにより、作り手の工夫が想像でき、より一層その魅力が感じられるはずです。百科事典を紐解くように、様々な漆芸技法をご覧ください。(河原法子)

漆絵が宿すものづくりの営み―漆絵菓子盆をたずねて―

美術漆器という言葉が広まり、普及品としての漆器に装飾性が求められるようになったのは明治時代のこと。さかのぼれば、その堅牢さゆえにハレの場を彩る役割を果たしてきた輪島塗の歩みもまた、生活に寄り添った実用品として出発したことは言うまでもありません。品質や図案の改良は今日まで産地の命題となった一方で、日々のものでありながら、産地の人々に愛された意匠があります。岩手県浄法寺町へ「漆絵菓子盆」と呼ばれる漆器をたずねました。

日本随一の漆の生産を誇る浄法寺町は、言わずと知れた浄法寺塗の産地でもあります。かつて浄法寺通りと呼ばれた安比川流域では直径15〜20cm、高さ1〜2cmほどの黒漆塗盆が戦後間もないころまで生産されました。使用の場面は地域によって差はありますが、野良仕事で田畑に出た際、10時と15時の小屋に取り皿として用いられるなど、暮らしに密着した日用品でした。

浜下地の簡素な塗りの見込みには、素早い筆運びで漆絵が描かれています。同様の菓子盆は福島県の会津や秋田県の川連でも生産されましたが、この地域の漆絵は民藝の創始者柳宗悦をして「甚だ調子が美しい」（『工藝』120号）と言わしめました。また、岩手県立博物館や二戸市にもまとまったコレクションが所蔵されています。描かれた漆

絵の主なものは、桃、菊、熨斗、イチヨウなどの吉祥文で、まれに動物もあります。一気呵成に描かれた漆絵を目の当たりにすると、生き生きとした運びに素朴であたたかな印象を受けます。これらの漆絵は、加飾専門の職人ではなく塗師によって施されました。

岩手県にて漆絵菓子盆のコレクションをご案内いただいた泉山恵一氏によれば、漆器が多く出回る市日で盗み見た図がもとにされたり、手早く多く仕上げるために簡略化されたりすることで、一見不可思議な文様も生まれたのだといいます。より速く仕上げるために、筆先がなぎなた状に広がる片切筆も用いられました。菊の花弁や葉を一筆で表すのに適しています。

日々生産を行うサイクルの中で生き物のように姿を変えた文様。組織的な図案の研鑽とは好対照をなす、個々の職人の営みが垣間見えます。一見ユニークでひとつひとつ異なる漆絵の表情に思わず顔がほころぶような思いがするのは、緩やかな需要に後押しされた健全なものづくりのふるさとの姿を見るからかもしれません。（寺尾藍子）

〈参考文献〉

「漆絵皿」二戸市浄法寺総合支所漆産業課
泉山恵一「浄法寺菓子盆について」



桃文様の漆絵菓子盆（泉山恵一氏所蔵）
簡略化された桃の図に錫粉で着色したものが、同様に漆絵に色粉で着色したものもある。



TOPIC

令和元年度 石川県輪島漆芸美術館友の会秋季研修旅行報告

石川県輪島漆芸美術館友の会は、「昇竜道の美術館・博物館をめぐる旅」と題し、11月13日(水)から15日(金)まで秋季研修旅行を実施しました。岐阜県、愛知県、滋賀県の文化施設を中心に、今節ドラマで取り上げられ注目される焼き物の里を訪ねる旅となりました。

日下部民藝館
愛知県陶磁美術館
熱田神宮・宝物館
名古屋市博物館
徳川美術館
とこなめ陶の森資料館
MIHO MUSEUM
滋賀県立安土城考古博物館
参加者：20名

最初に訪れた高山の旧市街では、国指定重要文化財・日下部民藝館を見学しました。主屋は切妻造り段違い二階建てのヒノキ造りで、吹き抜けには梁と束柱の堂々たる木組みがうかがわれます。江戸時代高山の町家造りの特色を堪能しつつ、天領として栄えた往時をしのびました。愛知県陶磁美術館では、瀬戸をはじめとする「六古窯」の歴史や他の日本各地の技と美を幅広く学びました。

二日目は大嘗祭の熱田神宮を参拝の後、名古屋博物館、徳川美術館を巡りました。尾張地域、ひいては徳川家にもつわる歴史と文化の広がりを感じることができました。その後バスは常滑市に移動し、とこなめ陶の森資料館鑑賞、やきもの散歩道散策へ。生産用具の数々や、大量生産時代の煙突を見学し、平安時代末期の昔から、その姿形を変容させつつ続けられた常滑の焼き物の歴史を肌で感じました。



MIHO MUSEUM

最終日は滋賀県に移り、すぐれた建築で多くの来館者を魅了しているMIHO MUSEUMを訪れました。「The 備前——土と炎から生まれる造形美——」を鑑賞。昼食をはさんで、滋賀県立安土城考古博物館の秋季特別展「動物美術館開演！」にて学芸員の方のユーモアたっぷりの解説とともに狛犬や獅子など、造形美術におけるユニークな表情の動物たちを楽しみました。

後ろ髪をひかれつつ訪問先を後にし、「昇り龍」の名の通りに中部地方からの道のりを辿った今回の旅に想いを馳せました。多くの訪日観光客(インバウンド)を目にした今回の研修旅行を通じて、我が国の魅力を広く発信するためにこの経験を役立てたいと思いを新たにしました。(萬砂明世)



滋賀県立安土城考古博物館

イベント情報 2020. JAN-MAR

* 予定は予告なく変更することがあります。詳しくはホームページをご覧ください。

新年を寿ぐおもてなし

1月1日(水・祝)～3日(金)
わんじまのお年賀プレゼント * 要入館券
新春ゲームコーナー * 入場無料
新春福袋販売 * 10個限定・2,000円

輪島市内小学6年生の沈金作品 「メモリアルパネル展」

2月1日(土)～11日(火・祝)
会場: エントランスホール * 入場無料

鬼わんじまぬりえ展 2020

2月1日(土)～11日(火・祝)
会場: エントランスホール * 入場無料

輪島あえの風冬まつり 入館料特別割引

2月8日(土)～16日(日)
一般 420円 高大学生 210円 小中学生 100円

輪島塗で味わう水ようかんのおもてなし

2月15日(土)・16日(日) 9:00～16:00
会場: 講義室 * 要入館券・1日60名様限定

ミュージアムコンサート 金沢大学ピアノの会

3月20日(金・祝) 14:00～
会場: エントランスホール * 入場無料
出演: 金沢大学ピアノの会

美術館賞とセットの手作り体験

下記日程(いずれも水曜日)は事前申込み不要で体験できます。

1月8日・15日

2月5日・12日・19日

3月4日・11日・18日・25日

* 記載日以外を希望の場合はホームページからご予約ください。

沈金スプーン色付体験

体験料: 高校生以上 1,700円

中学生以下 1,300円

所用時間: 約15分

沈金箸色付体験

体験料:

高校生以上 1,500円

中学生以下 1,100円

所用時間: 約20分



ミュージアムショップからのお知らせ

石川県輪島漆芸美術館ミュージアムショップでは、公式キャラクターわんじまのオリジナル新商品の発売を予定しています!

2月1日(土)からは、わんじまランチバッグ等の販売を開始します。

どうぞお楽しみに!

